

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日, 評価結果市町村受理日. Contains details for 'グループホーム 華 すみれ'.

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190503151-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は閑静な住宅街に立地し、向かいの公園は四季折々の木々や草花を楽しむ事ができ、子供たちが遊ぶ姿や地域の方々が集う姿を見て、日常を感じていただける環境になっています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Details for '特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット'.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

Blank area for external evaluation comments.

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Contains 10 rows of evaluation items (No. 56-62).

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、また愛安全会の理念、各ユニットの理念をホーム内に掲示し、意識してケアにあたっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防で地域との交流はあまり出来なかったが、近隣のコンビニへ買い物に行った。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会や地区センターの行事に出来るだけ参加して認知症の理解と支援の方法を広めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月ごとに定期的開催しサービス提供の内容報告を行うと共に地域や包括支援センターの方から意見や情報を頂いてサービスの向上にいかしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に札幌市の担当者より研修の案内が来たり、情報を求めたりしている。毎月の利用状況の報告も行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の行動や思いを日頃より理解し、心身の拘束をしない尊厳ある自由な生活を支援するよう努めている。また玄関の鍵は電子錠になり、非常時パニックオープンになっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や愛安全会の内部研修に全職員が参加し、学んだことを基盤に人権を遵守したケアを行い職員間で実践を徹底している。6月より身体的拘束適正化委員会で、3ヶ月に1度、職員全員で虐待がないか話し合いをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の必要な入居者様に対応出来るように研修資料をユニットで回覧し、職員が理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書をもとにリスクの説明や、医療機関との連携とより重度化や見取りの指針など説明して同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートに記入してもらったり、玄関にご意見箱を設置し、サービスの向上に努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを定期的に行き、より良いサービスを提供出来るように意見交換をして業務に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員と共に日常業務に入り、職員の努力や成果を把握するようにしている。また年2回の人事考課で資格取得に向けた支援や、向上心を持って働けるよう働きかけをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修情報を収集し、多くの職員が参加出来るよう勤務調整を行っている。研修後はカンファレンスで報告をし、全職員が同じスキルで業務に当れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の研修で勉強会を行い、学んだことをユニットに還元するよう取り組んでいる。また、管理者連絡会で意見交換したことを持ち帰り、サービスの質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の訪問や、入居時にご本人の希望や不安、またご家族様の思いを受け止め、安心できる関係づくりができるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでの経緯やご家族様の気持ち、希望をしっかりと聞きし、ホームとしてできる限り支援させて頂くことをお話している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や契約時にご家族様、ご本人様それぞれのご要望をしっかりと確認し、必要な支援を見極め初期プランに反映させている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬する心を常に持ち、共に過ごし、学ばせて頂き、支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日々の暮らしのご様子を面会時やお便りでお知らせし、ご家族様と一緒に支援をしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚が来訪されたり、電話のやりとりなど、入居者様がこれまで大切にしてきた関係の継続を支援させて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で食事やティータイムの席を工夫したり、入居者様同士の関係がより深まる様に努めている。また全員が参加できるレクリエーションなどを行い、皆様が楽しめるように工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りの方が入居中に亡くなった後も葬儀に参列するなど交流を続けるようにしている。また退居後ご家族様からのお電話を頂き介護の相談を受けたこともありました。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様から頂いた情報や、日々の関わりの中で言葉や表情から希望や思いを汲み取るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から入居前の生活歴や生活環境等をお聞きし、今までと変わらない生活ができるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方の得意な事や、日々の希望を把握し、お手伝い等で役割をもって頂いたり、わからない事の説明で安心できるように個々に支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族からそれぞれの思いや意見をお聞きしケアプランを作成している。また主治医、看護師にもアドバイスをもらいアセスメントとモニタリングを行い反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに則ったサービスを提供しその評価を記録している。また気づきや情報を共有するために定期的にケアカンファレンスを開いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の受診や外出希望は、ご家族が対応出来ない時にはホームの職員が支援している。また受診する医療機関もご本人やご家族の希望を優先している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防で外出制限しながら、ご家族と自宅で過ごしたり、大型スーパーに出掛け買い物を楽しんで頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の訪問診察を受け、看護師による訪問看護の他、緊急時の往診や個々の病状に合わせた他医療機関との連携や、入居前からのかかりつけ医での医療も継続できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護ステーションから看護師の訪問があり、健康管理相談とアドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は速やかに医療機関へ支援情報を提供している。また安心して治療を受け早期に退院できるよう、ご家族やソーシャルワーカーと情報交換しながら退院支援のアプローチをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化に伴うケアについて・終末期についての医療の希望の説明を行い、またご家族様には医療との連携を十分に活用した最良のケアが提供できるように、日頃から意思疎通を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人や札幌市、消防署主催の緊急対応研修に全員が参加し実践に備えている。また委員会で緊急時対応マニュアルを作成し、急変時、緊急時に迅速に対応している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を入居者様、町内の方、全職員が参加し行っており、避難経路、消火器の使い方などを繰り返し確認している。また毎週1回、建物内の防火点検チェックを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の尊厳に配慮しプライバシーに配慮することを実践している。また個人情報に関する話や申し送りは場所を選んで行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が自己決定しやすいような言葉かけ、思いを表現できるような信頼関係づくりを日頃より心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペースに合わせた対応を心掛けている。意思表示が困難な入居者様には表情を読み取ったり、サインを見逃さないようにしてご本人の望む暮らしを提供するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んで頂いたり、お化粧品やおしゃれや整容が出来るよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を考えたり調理や盛り付け、後片付けなどそれぞれの得意な力を活かして頂ける様支援している。季節を感じる盛り付けや食器にもこだわり、楽しく食事をして頂けるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立で栄養バランスのとれた食事を提供している。また基礎疾患にも配慮し飲水量やおやつへの提供にも工夫するようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には声かけと見守り、介助の方も尊厳に配慮した声かけで行っている。口腔状態をチェックし訪問歯科と連携を取って口から食べる事への支援をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し尊厳に配慮したさり気ない声かけで、できるだけトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水チェック表を活用し水分摂取の促しをしたり、毎日の体操で便秘にならないよう取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お一人お一人の希望を伺い、いつでも入浴出来るよう支援している。毎日の入浴でも午前、午後の時間帯にも柔軟に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や生活リズムを尊重し、ゆっくり休息がとれるような環境作りに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬の用法や、副作用等を日勤者同士で話し合い、服薬の都度日付と内容を確認するなど誤薬がないように取り組んでいる。薬の変更があった場合は主治医に心身の状態を報告し、服薬調整に活かせるよう連携を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で個々の喜びや楽しみを発見したり、生活歴からその方の役割や力が発揮できるような場面を個別で支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天候によりマスクを使用し、向いの公園をスタッフと一緒に散歩している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と買い物したり、職員がご希望の品物を買ってくるなどの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状やお手紙を送る支援をしている。またご家族様やご友人の声が聞きたいなどの希望がある時はいつでもお話が出来るよう電話を取り次いでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには四季を感じて頂けるよう、いつもお花を飾っている。また浴室や洗面所には手すりを設置し、自立支援に配慮している。キッチンも広く、入居者様と一緒に調理が出来るように工夫されている。食事の時間には音楽を流しゆっくり食べて頂けるよう雰囲気作りをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食卓テーブルやソファが空間を分けるように考慮された設置方法になっており、気の合う方同士で座ったり、その時々価値観で過ごしていただけるよう工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具の上に思い出の小物や写真を設置し、安心して穏やかにお過ごしいただけるようにご家族様からの情報も参考にしながら空間作りを工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様が車いすを自由に安全に使用でき、介助バーや手すりを設置することで排泄、整容、入浴など今出来ていることが長く維持できるような環境整備を心がけている。		